

「解答」・「解答例」・「出題の意図」

選抜区分

2023 年度 (選抜区分：一般後期)

文学部 比較文化学科 (科目名：小論文)

問題 1 (標準的な解答例)

近代日本で成立した〈子ども〉は、人のアイデンティティを構成する要素であり、〈大人〉が一人前の社会人として様々な権利や義務をもつものに対し、未熟で、大人によって社会の荒波から庇護されるべきと考えられている。これは、ある年齢幅で区切り、特別な愛情と教育の対象として捉え、無知で無垢な存在として大人と明確に区別する近代の西欧社会で形成された〈子ども〉観の影響を受けつつも、西欧とはやや異なるプロセスで誕生した。建設されるべき近代国家を担う国民育成を目指して、それぞれ異質な世界にあった子どもたちが学制公布により、学校という均質空間に一举に掬いとられて「児童」という年齢カテゴリーに一括されるとともに、小川未明ら文学者によってロマン主義的観念としての「児童」として発見されることで生まれた、と作者は考えている。(350 字)

問題 2 (評価のポイント)

①**文章読解力**：問題文の論者は、周囲の現実の子どもや子ども時代の自身のイメージと、社会的に形成された子どものイメージとの間にズレを感じているが故に、形成された子どものイメージに対し距離を取ってその起源を探ろうとしている。このことをまずは文章から読み取れているか。

②**知識の応用力**：テレビや本・雑誌などによって社会的に形成された子どものイメージが自分の身のまわりにもないか眺め、客観的に例を挙げることができているか。

③**批判的な考察力**：問題文から、社会的に形成された子どものイメージに対し距離を取る視点を得て、それを解答に反映できているか。形成された子どものイメージの説明に満足せず、イメージに対し別の角度から捉え直す余地を模索できているか。

(解答の一例)

作者も述べているように、今日においてもまだ純粹で無垢な子どものイメージは残っていると思われる。例えば、平成 9 年に起きた神戸連続児童殺傷事件や、平成 16 年に起きた佐世保小 6 女児同級生殺害事件は、子どもによって起こされた残酷な殺人事件だが、マスコミ報道などでは、加害児童の育った環境や障害を問題視することで、加害児童もある意味において被害者であること、あるいは加害児童が例外的な人間であることを強調し、子どもの純粹無垢なイメージを頑なに守ろうとしていたと考えられる。加えて、教育現場では無限の肯定的な未来をもった子ども像が紡がれ、マスコミなどに共有されることで、戦争や災害の報道の際に「純粹で未来ある子どもたち」の死が特に取り上げられる(大人の死より一段高く扱われる)ことも珍しくないが、法の下の平等という考えに基づけば、このような子どもを特化するようなイメージ形成は望ましくないと考える。(393 字)